

レドックスアッセイ

総抗酸化能(TAC)測定キット 測定プロトコル

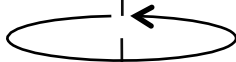
1. 固体試料中の水溶性抗酸化物質の抽出

例) 生体組織中の水溶性抗酸化物質の総抗酸化能を測定する場合
乾燥植物粉末などに含まれる水溶性抗酸化物質の総抗酸化能を測定する場合

組織片・ペレット等

秤量した試料をサンプルチューブまたはコニカルチューブに入れる
(試料は細かくカットするか、ホモジナイザー等で粉碎する)

← 精製水、あるいは生理食塩水で希釈
ボルテックス後、揺動攪拌15min以上



遠心分離(10,000rpm、4°C、10min)

上清をアッセイ検体とする

※抽出時の注意

抽出条件のばらつきが測定結果のばらつきにつながる可能性があります。抽出条件が検体によって異なることのないよう抽出してください。

2. 液状試料(果汁飲料・ワイン等)

試料によってはキットの測定範囲を超える場合があります。
予想される抗酸化物質の濃度や測定値に応じて、適宜希釈してください。

参考希釈倍率:

試料	尿	紅茶	緑茶	赤ワイン	白ワイン	果汁飲料	日本酒
希釈倍率	4倍	8倍	25倍	8倍	4倍	4倍	1倍

3. 血清・血漿

EDTA採血管以外のチューブで採血し、そのままアッセイしてください(溶血注意)。

- アッセイ検体はpH2以上にしてください。
- アッセイキットは常温に戻してから使用してください。また、アッセイ中のプレートにエアコンの風やPCの排熱が当たらないようご注意ください。
- 標準試料はボトルに記載されている量の精製水を添加し、溶解してください。添加量はボトルによって異なります。添加前には必ずご確認ください。
- 反応時間は厳密に管理してください。反応時間の差が測定誤差につながる可能性があります。
- 検体を希釈した場合は、濃度計算時に希釈倍率のかけ忘れに注意してください。
- メタノール、エタノールは測定に影響を与えません。しかし、抽出された成分によっては懸濁・沈殿する可能性があります。その場合、抽出液にて検体を希釈して、再度測定してください。
- 高濃度に銅を含む検体、またEDTAなどの銅キレート剤を含む検体では正確に測定ができない可能性があります。
- タンパク質・脂肪分の豊富な試料は、測定時に懸濁する可能性があります。遠心分離などによってタンパク質・脂肪を取り除くか、希釈を行い、再度測定してください。